



…他に何か方法は？

脳低温療法の  
効果はどうでした？

何とかして  
助ける方法はないのか？

何か…  
……

パブリックコメント募集公開用  
複写・引用・転載・頒布 厳禁

## 回復が見込めない小児患者の把握

このシーンに参加するスタッフは…

主治医，集中治療医，看護師，患者・家族ケアチーム，院内コーディネーター，MSW，臓器提供サポートチーム，倫理コンサルテーションチームなど

### MUST!

1. 回復が見込めないかどうかの判断は多職種を交えて行う。
2. 回復が見込めない子どもの情報を関係者間で共有する。
3. 今後の治療方針を検討する。
4. 回復が見込めない病状をふまえて家族支援を行う。

重度意識障害の回復が見込めず、近い将来の脳死とされうる状態への移行が避けがたい時期には、子どもの治療方針や残された時間の過ごし方について改めて家族と話し合う必要が出てくる。具体的には、延命を目的とした治療を継続するのか、あるいは侵襲を伴う治療を軽減・終了するのかといった今後の治療方針に関する検討を行ったり、療養環境・場所の設定を検討したり（最大限の集中治療を行うことができる環境を優先するか、家族で穏やかに過ごす時間を優先した環境を準備するのか、など）、そして、臓器提供の可能性について関係者間や家族との協議を行うなど、さまざまな課題について検討が必要であり、医療スタッフと家族が互いに協働して丁寧に意思決定を進めていくことが求められる。

意思決定においては原則的に患者自身の事前の意向（あるいは推定意思）が重要になるが、子どもは発達段階や判断能力において年齢による違いや個人差が大きい。そのため、各々の発達段階をふまえて適切に子どもの意思を尊重しながら、子どもの最善の利益に基づいた協働の意思決定を行うことが望まれる。

### 1 回復が見込めないかどうかの判断は多職種を交えて行う

- 回復が見込めないかどうかの判断は、妥当性、適切性を慎重に検討する必要があるため、1人の医師が独断で行うべきではない。
- 複数の医師を含む多職種でのカンファレンスを通じて最終的に判断することが望ましい。

## 2 回復が見込めない子どもの情報を関係者間で共有する

- ☑ 回復が見込めない子どもの情報を早い段階から関係者間で共有しておくことで、今後の治療方針に関するコンセンサス形成や家族ケアの準備をより余裕をもって円滑に行いやすくなる。

## 3 今後の治療方針を検討する

- ☑ 多職種によって協議された回復が見込めないという判断に基づいて、関係者がさまざまな情報を共有しながら、今後の治療方針について再検討する。
- ☑ 治療方針に関する医療スタッフ間や家族との意思決定プロセスにおいて、倫理的な課題や重大な意見の不一致が生じている場合は、倫理コンサルテーションチームなどの第三者的なスタッフを含めてより慎重な協議を要することもある。

## 4 回復が見込めない病状をふまえて家族支援を行う

- ☑ 医療ケアチームは家族に対して現在の子どもの病状や今後起こり得ることを説明し、今後の治療方針について継続的に協議を行う。
- ☑ この時期の意思決定は、看取りのケアを含めた療養のあり方や緊急時の対応の仕方について、やり直すことのできない大切な時間をより有意義に過ごし、将来に悔いを残さないためにも、子ども本人と家族の意向に沿って実施できるように、事前のケア計画を医療スタッフと家族で共有しておくことが望ましい。
- ☑ 家族は子どもの回復が見込めないことへの悲嘆、これからの病状の悪化への不安を抱えながら、気を張り詰めた状態で過ごしている。不安定な精神状態のなかでさまざまな重大な意思決定を迅速に行わなければならない重圧が、よりストレスを強めることになる。そのため、患者・家族ケアチームは、家族の混乱をより少なく、心身のストレスをより軽減できるように、病状の理解・把握を支援するとともに、安心して過ごせるように心理的サポートや環境調整に配慮する。
- ☑ 同時に、患児のきょうだいが適切な情報から疎外され、置き去りにされないように配慮しなければならない。きょうだいとのコミュニケーションに際しては、発達段階や心理状態をふまえて、話す内容やタイミング、表現の仕方、子どもの専門家のかかわり方を配慮し、協働の意思決定への参加の意向も含めて気持ちに耳を傾け、尊重することが重要である。

### TIPS!

- ☑ 回復が見込めない子どもの情報を早い段階から多職種間で共有・連携しておくことが望ましい。

**気をつけよう!**

**パブリックコメント募集公開用  
複写・引用・転載・頒布 厳禁**